

ため池ハザードマップを受け取ったら

1 事前に自宅や周辺が安全か確認しておきましょう

- 自分の家がどこにあるのか確認し、印を付けましょう。
- 自宅や周辺の浸水状況や浸水の到達時間、危険個所などを確認しておきましょう。
- 災害の時、慌てないために家族や地域で災害について話し合いましょう。



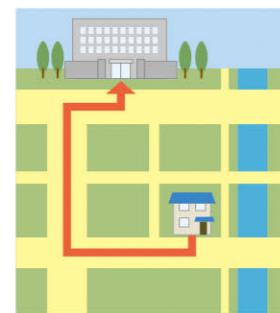
3 防災情報の入手方法を確認しておきましょう

- ため池の堤防が決壊すると、短時間で洪水が襲ってくる可能性がありますので、日頃から防災情報の入手手段を確認しておきましょう。
- 「防災情報の入手方法」を確認しましょう!



2 避難場所と避難経路を考えておきましょう

- 避難場所や避難経路などを事前に決めておきましょう。
- 実際に避難経路を歩いて、移動時間や安全かどうかを確認しておきましょう。
- 避難時に高齢者など配慮が必要な人への情報伝達や補助内容を決めておきましょう。

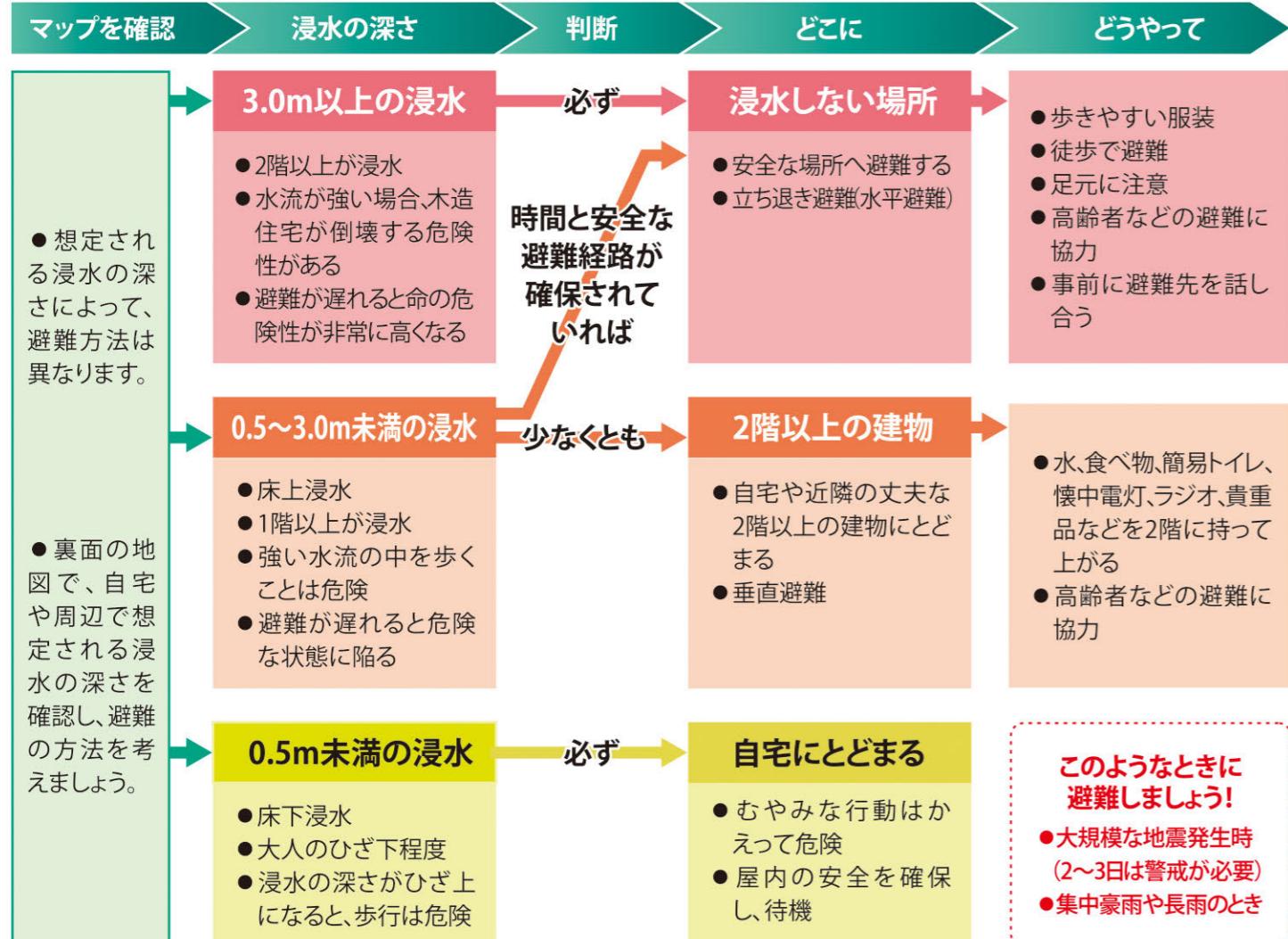


4 市の「笠岡市総合ハザードマップ」もご確認ください

- 笠岡市では、市民の防災意識向上のため、「笠岡市総合ハザードマップ」を作成し発行しています。このハザードマップと合わせて活用していざという時に備えましょう。



浸水の深さを想定した避難の流れ



こんなときは要注意!

大雨のとき



大雨のとき、ため池の水位が上昇し堤防を越えた水の勢いによって堤防が侵食され、決壊することがあります。竹や流木が洪水吐の断面を閉塞せると、堤防を越流しやすくなり、侵食・崩壊の危険性は、一層高くなります。

大地震のとき

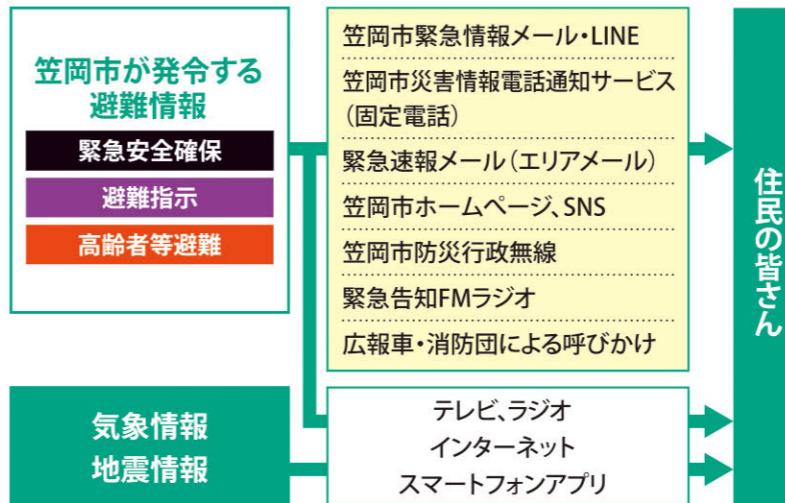


大地震のときに、ため池の堤防が異常な力を受け亀裂が生じたり、地盤の液状化により決壊する危険性があります。比較的小さな地震でも、堤防の内部に生じた亀裂などにより強度が低下し、水圧に耐えきれず決壊に至ることがあるので注意が必要です。

<ため池の決壊による災害事例> 平成30年7月豪雨では、西日本の2府3県で32か所のため池が決壊しました。
特に広島県では、ため池上部からの土砂流入によってため池が決壊し、死者1名、負傷者4名の被害が出ました。

防災情報について

■情報の伝達経路



■警戒レベルと避難情報

警戒レベル	状況	住民が取るべき行動	行動を促す情報
5	災害発生又は切迫	命の危険直ちに安全確保!	緊急安全確保 ^{※1}
~~~~~ 警戒レベル4までに必ず避難! ~~~~			
4	災害のおそれ高い	危険な場所から全員避難	避難指示
3	災害のおそれあり	危険な場所から高齢者等は避難 ^{※2}	高齢者等避難

※1 市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令されるものではありません。  
※2 警戒レベル3は、高齢者等以外の人も必要に応じ普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。

### ▼いざという時の緊急連絡先

連絡先	電話番号
笠岡市役所	0865-69-2121
笠岡地区消防組合消防本部	0865-63-5119
笠岡警察署	0865-63-0110

### ▼我が家家の避難先

避難先	電話番号	メモ